

タイトル

【 畳 】

F.S



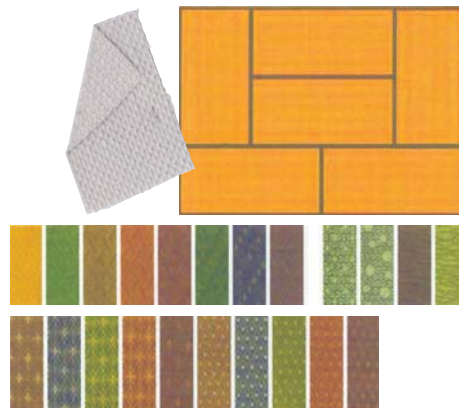
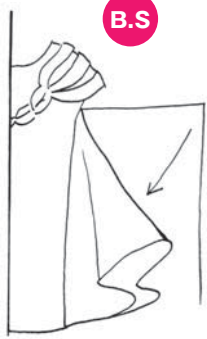
■ 製作にあたって

私は日本独特の文化「畳」からイメージし、デザインを考えました。畳のふちの畳縁といわれる部分はジャガードで織り、畳表といわれる面の部分は畳の目の表情を表現したいので、ツヤのある、ハリの強めの糸で、波縫いをしたような横しまの柄を入れています。またシルエットを美しく出すために布全体がハリのある生地に仕上げられたいです。テキスタイルを最大限生かすために、日本のもつ「直線美」に着目し、前身頃のパーツはそのまま直線的なシルエットにし、脇のパーツは、直線に縫いつけて遊ばせる事によって、このテキスタイルの面白さを表現する事によって2つの新しい表情を作れると思います。

Image



B.S



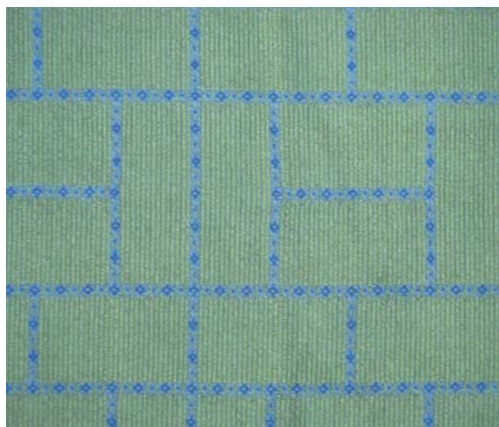
■ 当初のイメージと製作した素材との比較

イメージとほぼ同じで驚きました。畳をそのまま柔らかくしたような形になって、とても満足しています。可縫性も考えて頂きストレッチの入った生地にして頂いたので、タイトなシルエットを作りやすくて助かりました。

■ 新たな発見や学んだ点、苦労した点

ヘリを作るさいに、糸が太すぎるとヘリにくいこんでしまい、そのつなぎめをどうするかという事、畳の目を表現するのに縫加工をして頂くき分をつくるのにウレタンを入れて頂きました。経糸がどう表面に出てくるか自分の中にイメージがなく、ピンクがくすんでしまいましたが、講師の先生にブルーとシルバーを用意して頂いて助かりました。

- 協力／(有)アサヒ紋工所、(株)ソトー宮事業部、中隆毛織(株)、尾泉染色(株)、(有)レナード
(順不同)



R60%、Pe23%、C14%、N2%、Pu1%

タイトル

【 凹凸 (アウトツ) 】

F.S



■ 製作にあたって

私のイメージテーマは「立体感」です。最近トレンドにもなっている3Dのテキスタイルに興味を持ち、私なりに凹凸感のあるテキスタイルを提案します。空にある雲のようなところのない形や、綿毛のふわふわした感触を素材に表現したいと思いました。シャギーの流れるような毛並みを土台にして、そこに羊毛繊維束をぬっていきような形で動きのある布と立体感を出していきたいです。更に、より立体感を際立たせたいので、できれば、羊毛繊維束を縦横に交差させてランダムに配置していきたいです。縦横の交差が基本ですが、縦や横のみに浮き出ている場所もあったらいいなと考えています。カラーは黒と白の2色で展開したいです。その理由として、色にとらわれることなくテキスタイルの良さを感じ取ってほしいと思ったからです。「立体的」をベースに、やわらかさとつめたさを表現できる素材を展開できたらと考えています。

Image

B.S



■ 当初のイメージと製作した素材との比較

デザイン画ではフラットなテキスタイルから3Dに浮き出ている感じをイメージして、実際製作した素材を見ると、私の想像以上に良いテキスタイルが完成しました。3Dに浮き出ている+綿毛のフワフワした感触+クロス柄全てが合致してテキスタイルとして実現したので嬉しいです。

■ 新たな発見や学んだ点、苦労した点

苦労した点として、テキスタイルを自分の手で完成へと近づけたことです。私のテキスタイルは、一回織ったものをはさみでいらぬ部分を切り、洗うことで完成します。切る作業は自分の手でやるので、その際腕が筋肉痛になったり、肩が張ったりと大変でしたが、完成したテキスタイルを見て、頑張って良かったなと感じました。

- 協力／ 鶴飼毛織、(株)ソトー、東和毛織(株) (順不同)



W100%

タイトル

【カラフルキャンディー】

F.S



■ 製作にあたって

カラフルなキャンディーをイメージしました。お菓子の包みを開けたときのようなワクワクする気持ちを明るくポップな配色で表現します。たくさん丸いキャンディーが集まっているようなボコボコとした立体感を表面に出したいです。太い糸と細い糸を組み合わせることで表面に立体感を出せないかと考えています。また、太さが均一ではない糸を入れて、ランダムな凹凸感を出してもよいのではと思っています。素材はあたたかみのあるウールを使用します。ところどころにラメ糸やリボンなどを入れて、にぎやかで楽しい感じの生地できたらと思います。

Image



B.S



■ 当初のイメージと製作した素材との比較

表面の立体感や、明るく元気な色あいなど、ほとんど当初のイメージ通りに仕上げて頂きました。カラフルの色は何本か糸を入れて織る考えしかなかったのですが、1本の糸を5色にかす染めして頂くことで、1本の糸でランダムに色を出すことができました。太い糸を入れるのでずっしりすると思っていましたが、とても軽く、やわらかくて暖かい風合いの生地にして頂きました。

■ 新たな発見や学んだ点、苦労した点

細い糸と太い糸を織って頂いたので、糸が途中で切れやすく、手間がかかることが分かりました。昔ながらの織機で職人さんが織ることで大量生産ではできない風合いの良い織物ができることを学びました。1つの素材を作るのに、いくつかの工程があり、それぞれの職人の方の高い技術で成り立っていることが実感できました。

● 協力／小笠原(株)、川出毛織、(株)ソー、茶仙染工(株) (順不同)

W100%

タイトル

【温もり】

F.S



B.S



■ 製作にあたって

幼い頃、少し伸びた髪を二つに結んでくれたことや、眠れない私の背中をトントンと叩いてくれたこと、道路に飛び出してしまったわたしを力強く引っ張り守ってくれたことなど、誰もが一度は経験し、思い返す記憶を一着の洋服として表現したいと思います。

素材は、保温性があり着心地の良いウール、そしてぽこぽこ凹凸のあるポップコーン生地の製作を考えています。そして、ガーメント全体から温かみの感じるものにするために、グラデーション染めを考えています。また、より肌触りの良いものにするために一工夫出来たら良いなと思っています。完成した作品を目にした人が、母への感謝の思いを持ち、テーマの『温もり』に繋がるような作品に仕上げたいです。

Image



■ 当初のイメージと製作した素材との比較

最初は、ワッフル加工の生地の製作を考えていましたが、川村先生との話し合いや、様々な生地を目にすると、ポップコーン生地の方がイメージに近いと分かり、変更しました。綿の吸収性とウールの保温性の両方を持った生地に仕上がったので、とても満足しています。さらに水溶性ビニロンを用いて無燃特有のやわらかさも表現され、イメージにぐっと近付きました。

■ 新たな発見や学んだ点、苦労した点

最初から最後まで初めての経験ばかりで、想像以上の工程の多さに驚きました。その工程の量だけ工場や職人さんのお力をお借りしたのだと知り、本当に感謝の気持ちで一杯です。そして実際に自分の手で選び、編み、染めることができ、とても大変なことばかりでしたが素晴らしい経験となりました。

● 協力／川村ニット、柘植ニット、長屋ニット加工、藤井整絨(株)、山勝染工(株) (順不同)

W65%、C35%

タイトル 【もちもち】

F.S



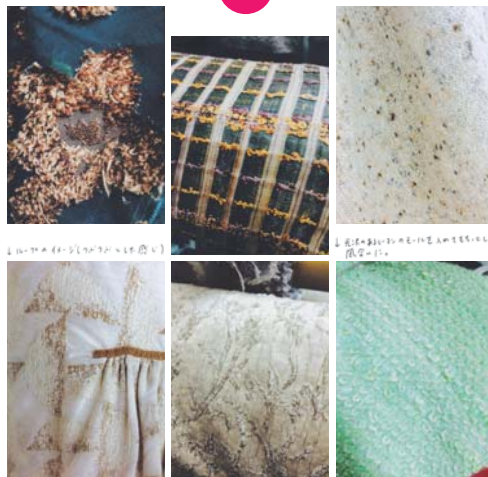
■ 製作にあたって

ごま団子の中に入っている断面をモチーフにデザインしました。私は中に入っているお餅とあんこの柔らかくて程良く甘い食感が大好きです。疲れた時に食べると優しい味が身体に染み渡ります。私にとって「癒し」の存在であるごま団子を身に纏うことが出来たらどんなに幸せを感じることが出来るだろうと思いました。ごま団子の柔らかい優しいイメージから人を纏い包み込んでくれる様なレディースコートを作りたいです。素材は尾州産地特有のウールを利用し、あんこの部分はループ糸で豆のつぶつぶとしたボリュームある豆の風合いを表現したいです。また、白い餅とごまの部分は光沢のあるレーヨンのモールを入れてもちっとした風合いを出したいです。



Image

B.S



■ 当初のイメージと製作した素材との比較

デザイン画通り仕上がりました。ごま団子の柔らかい優しいもちもちしたイメージを布で表現出来ました。当初は、もちの部分にループ糸で表情を出す予定でしたが、1インチに入る糸の重さが限度を超えてしまっで経糸が切れてしまったため、匠のアドバイスによりアルパカ糸に変更しましたがアルパカ糸によってイメージ通りのふんわりとした触り心地、表情が出て良かったです。

■ 新たな発見や学んだ点、苦労した点

自分の布に対するイメージを相手に伝えることの難しさ、重要さを実感しました。しかし、イメージを共有することにより匠がいるからこそ出来る技や新しい考えを自分のイメージと結びつけることによってより良いモノを生み出すことが出来ました。

● 協力／(有)アサヒ紋工所、(株)ソー、田中毛織、茶仙染工株式会社 (順不同)



W50%、R25%、N19%、Alp6%

タイトル 【自由に泳ぎ回る金魚のように】

F.S



B.S

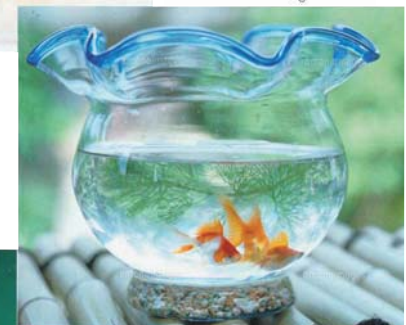


■ 製作にあたって

夏をイメージするものは何かと考えた時、お祭りによくある金魚すくいがい思い浮かびました。なので金魚をイメージしたデザインにしました。色は白を地にしてオレンジや赤色の模様をジャカードで表現し、エレガントな女性をイメージさせるようなテキスタイルにしたいと思います。またオレンジや赤色は1色ではなくカラーチップのような明度、彩度が微妙に違う色をませたいと思います。金魚の光沢感をラメ糸などを使いキラキラさせたいです。



Image



■ 当初のイメージと製作した素材との比較

最初イメージしていた布は金魚のもわもわした柄をジャカードで浮かせたいと思っていましたが、マテリアルセンターへ行ったり話し合いをしたりしていくうちに柄を金魚そのものにし、金魚が水の中を泳いでいるのが分かるような生地ができたので良かったです。

■ 新たな発見や学んだ点、苦労した点

マテリアルセンターで生地を見ていた時カットジャカードの裏を見つけた。このとき初めてカットジャカードを見てこれを表で使いたいと相談したのが始まりでした。カットの長さをバラバラにしたかったので自分でカットしたのですが8mとけっこうな長さだったので大変でした。

● 協力／アサヒ紋工所、岩田健毛織(株)、田清毛織、丸清燃糸、みづほ興業(株) (順不同)



C82%、Pe12%、N6%

タイトル

【自然に溶ける】

F.S



■製作にあたって

ヨーロッパの伝統衣装からインスピレーションを受けデザインしました。日本で言う獅子舞やアメリカのハロウィンのようにヨーロッパでも各地域で発展したお祭りや行事での衣装がたくさんあります。その衣装はどれも一見怖そうでもどこか愛らしく、また深い森やどこかの遠い島に本当に住んでいそうな印象を持ちます。そしてほとんど全ての衣装に共通して言えるのが衣装の素材に藁や動物の毛皮や骨、布といった各地域の身近なものが素材として使われている事です。そこに自然の豊かさや力強さを感じ、今回テーマに選びました。デザインの部分に豊かさや力強さを残しながら素材に優しいウールを使用することで服地として温かみのあるテキスタイルを提案します。地の色は動物の毛皮をイメージした茶色ベースで薄い色から濃い色に変化し、光と影の自然な様子を毛糸を使って表現。(薄い部分にはピンクや黄色、緑といった明るい色を混ぜ、濃くなるにつれて徐々に深緑、黒に変化させていく。)赤い部分は、植物の首飾、黄金色の部分は鈴をそれぞれイメージして鈴の鐐を青緑を入れて表現します。この2つの部分は縞糸をそれぞれしたり、ファンシーヤーンを使い、地の部分よりボリュームが出るようにしています。

Image



B.S



■当初のイメージと製作した素材との比較

当初は、柄がもう少し不規則に並んでいるイメージでしたが出来上がりの生地は規則正しい印象に仕上がりました。糸はウールとアルパカの混合糸にして頂いたので起毛させた時の肌触りがとてもやわらかくイメージ通りの風合いに仕上がりました。

■新たな発見や学んだ点、苦労した点

匠や機屋さんや染め屋さん、糸屋さんなどたくさんの職人の方々に携わって頂き服地を製作するのは初めてで、企画する側の自分自身あどれだけ作りたいものを具体的にイメージできているかがとても重要だと学びました。

- 協力／一陽染工(株)、(株)ソートー宮工場、東和毛織(株)、丸清然糸、森保染色(株)、四葉織房 (順不同)



W83%、Alp17%

タイトル

【ブロッコリー】

F.S



B.S



■製作にあたって

身近にある野菜、ブロッコリー。それらの表面をよく見てみると面白い凹凸が魅力的です。そのブロッコリー特有の「モコモコ・つぶつぶ」している質感を尾州産地の特有であるウールを使用して表現したいと考えています。現段階で使用したいと考えている糸は、3種類あります。ひとつ目は、縫りのあまにかかっていない太いウールの糸です。この糸をメインで使用する事で表面に大きな凹凸を作ります。ふたつ目は、イメージマップに貼り付けているような細かな突起のある糸を使用し、ブロッコリーの細かいつぶつぶ感を表現したいです。そして、これらの糸だけでは、フワフワした綿のような布になってしまうのではないかと、少し固めの和紙のような糸も使用し、独特なテクスチャーを表現したいと考えています。最後に洋服へ仕立てる際は、首元はボリュームのあるマフラーのようなボンチョ。その下にはノースリーブのミニワンピースを仕立て、着用した際に視覚的にブロッコリーを表現したデザインにしたいです。

Image



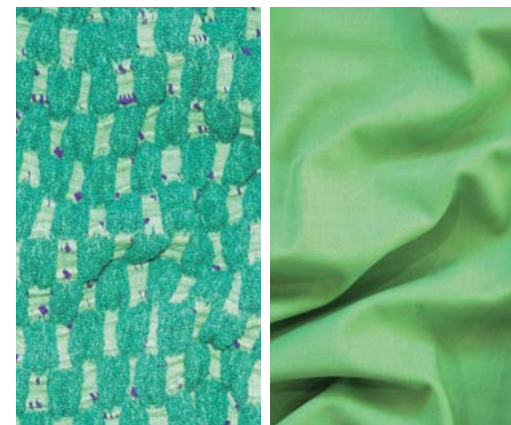
■当初のイメージと製作した素材との比較

当初のイメージでは、もう少し大きな凹凸を考えていましたが、組織の関係で難しいことが分かり5cmほどの凹凸になりました。しかし、風合いや色は、ほぼイメージ通りに仕上がりと、とても嬉しく思っています。

■新たな発見や学んだ点、苦労した点

頭でイメージしていても、実際には不可能なこともあります。知識が無いので糸を見ただけでは、出来上がりがイメージが出来ないので、苦労しました。

- 協力／一陽染工(株)、シカノ、(株)ソートー宮工場、東和毛織(株)、(有)捲春、丸清然糸、四葉織房 (順不同)



W90%、N9%、Pu1%

タイトル

[owl]

F.S



B.S



■ 製作にあたって

季節は秋・冬を選択しました。モチーフに選んだものはフクロウです。上に羽織るケープは、羽毛のふわふわとしたあたたかさを、ウールのふわふわ感とあたたかさを表現したいです。生地は厚めで、柄はフクロウの羽のような模様がよいです。仕上げはカットや起毛などをイメージしています。トップス・スカートはフクロウのやわらかな胸の部分をイメージしています。ウールをメインに、軽めで、少し毛羽立った生地が良いです。1枚1枚の羽を表現するような、織組織で作りたいです。色は基本的に少し黄味がかかった白色で、グレーや薄い黄土色などの色を混ぜたいです。

Image



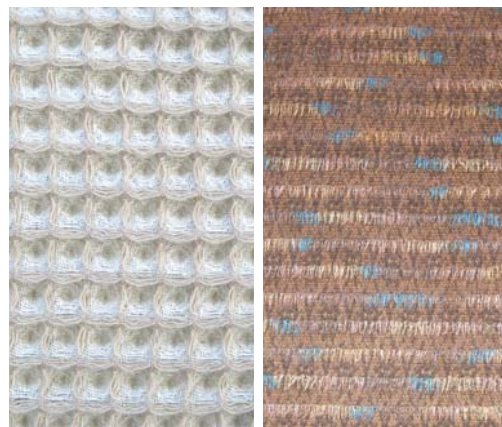
■ 当初のイメージと製作した素材との比較

当初のイメージとしては、所々が毛羽立った、ふわふわとした織りで、フクロウの外の羽を表現していただきたいと考えていました。実際は、もう片方の生地がポリュミーなと、質感が似ている事から、こちらは薄い物になりました。もう少し毛を長く多くしても良かったのかなあと感じました。

■ 新たな発見や学んだ点、苦労した点

細やかな部分までイメージを伝えるのは本当に難しいと思いました。自分自身も出来上がってから分かる事、気づくことがあったり、聞かれてみたらかない事などがあって、勉強不足を感じました。

● 協力 / (株)ソト一、茶仙染工(株)、戸崎毛織 (順不同)



W76%、N15%、Ag9%

タイトル

[chou]

F.S



B.S



■ 製作にあたって

イメージはキャベツの葉脈です。たまたま見たキャベツの写真の葉脈のストライプがよく見るときれいでこれを素材の柄にしたら面白いと思いました。生地はバリっとした少し硬めの絹素材を使用します。少しシワ加工も加えて、より葉っぱらしさを出します。大事なストライプの部分は硬めの素材を、立体的に浮き出るように使用します。また、トップスもスカートも光沢感を持たせて新鮮さやみずみずしさを表現します。キャベツの中でも肉厚な冬のキャベツをイメージしました。

Image



ミワで葉を表現

ストライプは立体的で凹凸のある感をイメージ

■ 当初のイメージと製作した素材との比較

思っていたより、ジャカードの柄が大きくできて良かったです。グラデーションは当初のイメージよりわかりにくいかなと思いました。想像していたより、キャベツっぽく見えるものができたと思います。

■ 新たな発見や学んだ点、苦労した点

実際に糸を織ってみると、思うように色がでなく急遽糸を変更しました。またグラデーションを作る上での色のバランスが難しいんだと感じました。

● 協力 / (株)ソト一、茶仙染工(株)、戸崎毛織 (順不同)



W100%

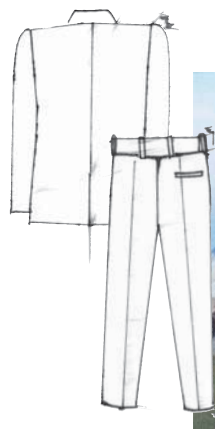
タイトル

【サーカス】

F.S



B.S



■ 製作にあたって

私が10歳の頃のサーカスを見に行った思い出から、そのショーで見て思ったドキドキや楽しさを表現しました。生地はウールでブルーの中に赤や黄色、緑、ネイビーなどの糸を織り交ぜた生地に製作したいです。柄はサーカスに見立て三角フラグのように表現したいです。矢羽根やチェック柄を組み合わせて構築的にしたいです。

Image



■ 当初のイメージと製作した素材との比較

当初のイメージは、サーカスに見たて三角フラグのように、三角の柄を織り上げたいと思っていましたが製作した素材は三角には織り上げることができませんでした。しかし、製作した素材はとても上品に且、おもしろい素材にでき上がって驚きました。三角チェック柄が難しいのであれば、シャドーチェックに着目して作りました。

■ 新たな発見や学んだ点、苦労した点

チェックの柄を作るのに一本一本の糸の色の配列が細かいことを知りました。素材製作の時、素材作りの条件から、それ以上の驚きを作れたらとてもおもしろい作品になるのだと思いました。また製作する時にイメージに合ったサンプルがあればイメージが伝わりやすいという事を学びました。マテリアルセンターを利用したいです。

● 協力／(株)ノトー、橋本毛織(株)、丸清撚糸、森保染色(株) (順不同)



W97%、C3%

タイトル

【フェーリア・モール】

F.S



B.S



■ 製作にあたって

以前、通っていたクラシックバレエの教室の発表会を見に行く機会がありました。そこで、演じられていたのが、「ラ・シルフィード」と言う作品で、スコットランドに住むジェームズが夢に出てきた妖精に恋をするという物語です。パドエントで終わってしまうのですが、妖精の軽やかな動きとスコットランドの民族衣装を身につけた男性のステップが魅力的で私の大好きな作品の1つです。この作品からスコットランドの民族衣装を知り、これを土台にデザインしたいと思いました。男性の民族衣装を女性らしいシルエットとデザインに変え、色は濃いグレーを基調に蛍光色に近い水色・緑・ピンクをタータンチェックのアクセントにし都会的なスタイルに仕上げていきたいと思っています。

Image



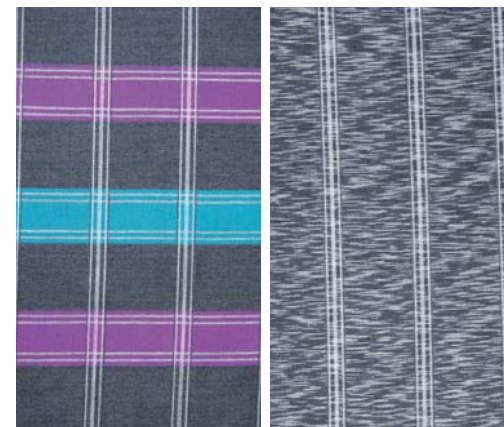
■ 当初のイメージと製作した素材との比較

チェックの柄の幅を大きめに設定していましたが、シュミレーションで少し幅を狭くしたことで、最初のイメージより可愛く出来上がり、色もきれいにイメージ以上の出来上がりでした。

■ 新たな発見や学んだ点、苦労した点

チェックの幅を決めるのに一番苦労しました。デザインにプリーツがあったので折った時にきれいに見えるように、何度も試したりしたことでした。

● 協力／一陽染工(株)、(株)今覧、富文毛織(株)、ビート企画、ワコトク染(株) (順不同)



W100%

タイトル

【punk dress】

F.S



■ 製作にあたって

私は、イメージマップ内にあるVivienne Westwoodのドレスを一目見た時に衝撃を受け、卒業制作でタータンチェックのドレスを作りたいと考えました。生地イメージとしては、薄くて手触りが良く、柔らかく、光沢のある生地をイメージしています。タータンチェックはもともとスコットランドの民族衣装に使用されていましたが、その生地は中厚手で、表面に少し起毛のあるウールサキソニーが一般的に使用されています。しかし、今回私が作りたいと考えている生地はそれとは全く逆のもので、ウールを使用しているにも関わらず、薄手で、表面に光沢があり、少しハリがあるものです。光沢はサテンのようなものではなく、バロックパールのような強い光沢をイメージしています。色は黒バラのような、赤に少し黒がはいった色をベースに、配色はタータンチェックの原点を踏襲し、スコットランドの民族衣装と同じ配色にしたいと考えています。ウールといえば厚くて温かいというイメージになりがちですが、その真逆のものがつくれたらおもしろいと思います。今までのタータンチェックの常識を超える新しい素材をつくれたらいいと思っています。

B.S



Image

■ 当初のイメージと製作した素材との比較

企画した当初はもっと張りのあるイメージだったが、実際に製作した素材は少し柔らかくなったのが、残念でした。しかし、最もこだわりたいと思っていた色と光沢感については、満足のいくものになりました。

■ 新たな発見や学んだ点、苦労した点

素材についての基礎知識は知っていましたが、実際に工場を見学したりお話を聞いたりすると、まだまだ自分の知識が浅いと思いました。就職先も素材に携わる仕事なので、これからもっと勉強して知識を深めていきたいです。

● 協力／一陽染工(株)、(株)今覧、富文毛織(株)、ビート企画、ワコートク染(株) (順不同)



W70%、Si30%

素材の名称

■ An=アクリル	■ Alp=アルパカ	■ Ag=アンゴラ	■ W=ウール(毛)	■ Cu=キュブラ
■ C=コットン(綿)	■ Si=シルク(絹)	■ N=ナイロン	■ Bb=バンブー	■ Vi=ビニロン
■ Pu=ポリウレタン	■ Pe=ポリエステル	■ Moh=モヘア	■ Ly=リヨセル	■ R=レーヨン